

基本目標6

地域資源を生かした
活力あるまちをつくる
ために

調布の歴史，芸術・文化，産業など，地域資源を生かした活力とにぎわいのある豊かなまちを目指します。

分野別の将来像と施策体系

**みんなが愛着と誇りを持てる，
地域の特色がきらりと光るにぎわいのあるまち**

施策 1 6 活力ある産業の推進

施策 1 7 魅力ある観光の振興

施策 1 8 都市農業の推進

**調布らしい芸術・歴史文化が身近に感じられ，
新たな世代に受け継がれていくまち**

施策 1 9 芸術・文化の振興

施策 2 0 地域ゆかりの文化の保存と継承

6-1 みんなが愛着と誇りを持てる、地域の特色がきらりと光るにぎわいのあるまち

施策16 活力ある産業の推進

目的	対象	消費者, 事業者, 起業家
	意図	商店街がにぎわう・市内消費が高まる 企業活動が活発になる・市内の起業家が増える

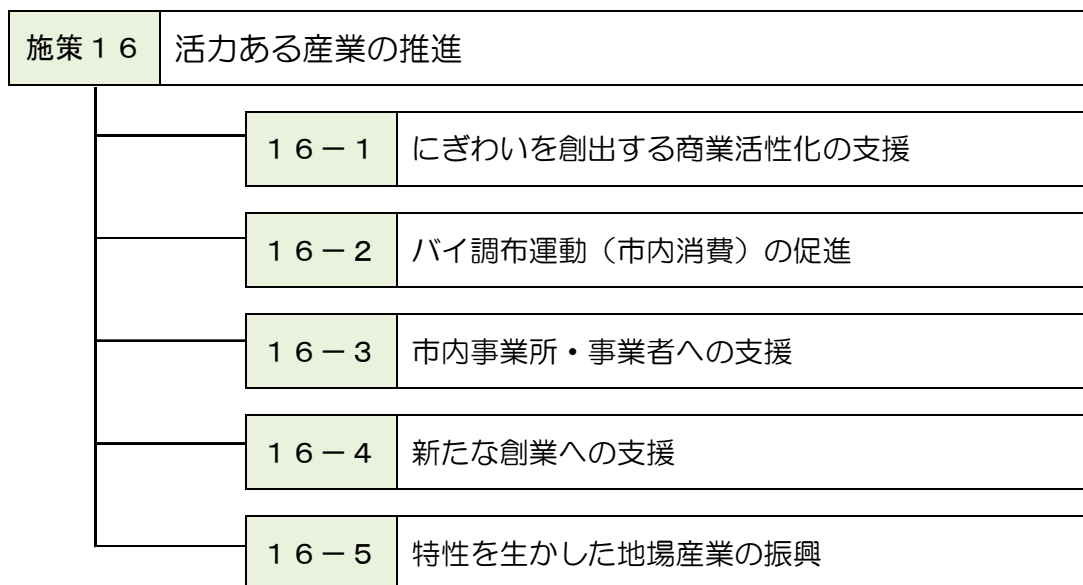
施策の方向

商店街の環境整備を促進し、その魅力を高めることで、魅力ある商店街づくりと市民の日常的な買物の利便性及び満足度を向上させます。また、地域経済を支えている中小企業・小規模事業者の振興や創業支援を行うとともに、調布市の特性を生かした市内産業の活性化を図ります。

後期基本計画における施策のポイント

- 中心市街地の活性化とにぎわいを市内全域へつなげる取組の推進
- ラグビーワールドカップ2019や東京2020大会を契機とした市内消費の促進とインバウンド対策の推進
- アウトリーチ型経営相談などによる創業の支援や中小企業の経営基盤の安定・強化
- 映画・映像関連企業や大学との連携など市の特性を生かした取組の推進

基本的取組の体系



✚ 現状と課題

- 調布駅周辺においては、駅前広場や鉄道敷地の整備が段階的に進展する中で、2017（平成29）年9月に市民待望のシネマコンプレックス「シアタス調布」を含む3館の商業施設「トリエ京王調布」がオープンしました。調布のまちが大きく変貌し、周辺の商店会・事業者等と連携・協議しながら、ソフト・ハードが一体となったまちの活性化を推進していく必要があります。
- 市内での購入比率の向上に向け、地域情報誌や市ホームページで商店会や特色あるお店を紹介したほか、ウォークラリー等の商店街イベントの支援やスクラッチカード事業の実施など、「バイ調布（市内商品購入）運動」を促進しています。引き続き、市内の消費喚起や商業の活性化、市民生活支援を図る取組を展開していく必要があります。
- 民間ノウハウを取り入れた中小企業等の振興及び地域経済の活性化を図るため、多摩信用金庫、三井住友銀行、りそな銀行、みずほ銀行・みずほ信託銀行、西武信用金庫と「調布市における中小企業等支援に関する包括協定」を締結し、相互連携による市内中小企業・小規模事業者へのきめ細かな支援に取り組んでいます。
- 市内での新たな創業を促進するため、産業労働支援センターでは、創業に関わる相談やセミナーを実施しているほか、市内の空き店舗等を活用して創業しようとする方、または創業して間もない方に対して、賃借料の一部を補助する制度等を創業支援事業として実施しています。創業に関する相談は増加傾向であり、今後は、民間ノウハウを生かした創業支援やきめ細かな経営支援を図っていく必要があります。
- 2017（平成29）年、電気通信大学の創設100周年記念事業の一つとして開設されたUECアライアンスセンターには、国内の先端技術を有する企業や学内研究組織が入居しています。今後、同センターと連携した市内産業の活性化に向けた取組を推進していく必要があります。
- 2017（平成29）年12月に国が示した新しい経済政策パッケージにおける中小企業・小規模事業者等の生産性革命に向けた取組を踏まえ、市として償却資産に係る固定資産税の特例措置を講じるなど、中小企業の設備投資を促進するための支援に取り組んでいます。

✚ 基本的取組の内容

16-1 にぎわいを創出する商業活性化の支援

◆にぎわい創出の支援

商店会、大型商業施設を含む事業者、商工会、観光協会及び調布市が連携・協働し、市民の協力と理解の下、市内商業の活性化を推進します。「デカ盛りウォークラリー」、「Oh！！辛チャレンジ」、駅前での「マルシェ」などに取り組むほか、商店街のイベントや振興事業を支援するとともに、地域資源を活用した観光施策とも連動させ、市内回遊性の向上を促進します。

◆商店街買物環境整備等の支援


来街者が快適で安心して買物ができる、商店街づくりを促進するため、街路灯のLED化やアーチの整備など、商店街の買物環境整備を支援します。また、買物が困難な方のために、事業者等との連携による取組を通じ、支援策を検討します。

第3編 分野別計画

◆中心市街地活性化の推進

調布市中心市街地活性化プランに基づき、回遊性向上の取組と連動し、旧甲州街道沿道のまちづくりの推進、映画・映像等の地域資源を活用した活性化、中心市街地の9つの商店会が連携して実施する活性化事業など、商工会・事業者等と連携して活性化を推進します。また、中心市街地のにぎわいを市内全域につなげる取組を推進するとともに、中心市街地活性化プランに代わる計画の策定に取り組みます。

まちづくり指標

まちづくり指標	現行計画策定時	基準値	目標値 (2022(平成34)年度)
日常の買物が便利と感じている市民の割合	67.9% (2014(平成26)年度)	71.3% (2017(平成29)年度)	

基本計画事業候補

事業名	商店街活性化の推進	担当課	産業振興課	重点	重点4
事業の概要	買物環境の整備等を支援するとともに、来街者を増やしにぎわいを創出するため、商店会が実施するイベント事業等を支援します。				

16-2 バイ調布運動(市内消費)の促進

◆特色あるお店づくりの支援と市内消費促進による商業活性化支援

市内消費を促進するため、市報やホームページ、地域情報誌などを活用し、市内の特色あるお店のPRとともに、商工会・事業者との連携のもと、より多くの市民が市内での買物を楽しんでもらえるよう、「バイ調布運動(市内消費)」を促進します。


◆ラグビーワールドカップ2019™日本大会、東京2020大会を契機とした商業活性化の支援

ラグビーワールドカップ2019™日本大会、東京2020大会を契機として、調布市ならではの、お土産のPRや販売促進の支援とともに、市内事業者による新商品・新製品の開発への支援に取り組みます。また、市内回遊性向上や商業活性化につながる各種イベントを実施するほか、店舗メニューの多言語化やWi-Fi整備、キャッシュレス対応など、商工会をはじめとした多様な主体と連携しながらインバウンド対策を推進します。

◆福祉作業所と連携した特色ある商品開発と販路拡大の支援

市内消費の促進と福祉作業所の受注機会の確保を目指し、福祉作業所と市内事業者、農業者、商店会等が連携して、特色ある商品開発と販路拡大の促進を支援します。また、福祉作業所の商品、製品等のPRや各種イベントへの出展を支援します。

まちづくり指標

まちづくり指標	現行計画策定時	基準値	目標値 (2022(平成34)年度)
市内商業者（小売業）の年間販売額	1,778億円 (2011(平成23)年度)	2,114億円 (2017(平成29)年度)	

基本計画事業候補

事業名	調布市商工会事業の支援	担当課	産業振興課
事業の概要	調布市商工会が実施する市内事業者の経営改善普及事業や地域産業の振興事業等を支援します。		

16-3 市内事業所・事業者への支援

◆調布市商工会への支援

市内産業の発展に向けて、商工会の経営改善普及事業や地域総合振興事業をはじめ、商業部会、工業部会、建設業部会、青年部、女性部、サービス業部会の部会活動を支援します。また、商工会と連携して市内事業所・事業者を支援します。


◆中小企業・小規模事業者への経営支援

中小企業・小規模事業者の経営基盤の安定と成長を支援するため、地域金融機関や中小企業診断士などの民間ノウハウを積極的に活用し、経営相談やアウトリーチ型経営相談（よろず経営相談）、各種セミナーの開催、商品開発・販路拡大等の支援や課題である事業承継を、商工会及び関係機関と連携して支援します。また、事業経営に必要な資金の融資をあっせんし、融資を受ける際の事業者負担の軽減を図り、経営の安定化を支援します。

◆中小企業・小規模事業者への技術支援

商工会と連携して、市内中小企業・小規模事業者が有する技術を生かした新製品開発の取組を支援します。また、電気通信大学の研究活動や技術などを生かした市内事業所への技術指導や連携などを支援します。

まちづくり指標

まちづくり指標	現行計画策定時	基準値	目標値 (2022(平成34)年度)
納税法人数	5,770法人 (2013(平成25)年度)	6,073法人 (2017(平成29)年度)	

基本計画事業候補

事業名	民間ノウハウを活用した中小企業・小規模事業者の支援	担当課	産業振興課	重点4
事業の概要	事業承継，創業・経営支援，人材育成・人材確保支援，商品開発・販路拡大支援，商店街支援等，民間ノウハウを活用した連携事業の実施など，市内中小企業・小規模事業者を支援します。			

16-4 新たな創業への支援


◆創業に向けた支援

市内での新たな創業を促進するため，産業労働支援センターでは，相談員による創業相談や創業に関するセミナーや講演会の実施など，創業を目指す市民を支援します。

◆創業者に対する支援

産業労働支援センター内のスモールオフィスで市内での創業を支援するとともに，商店街の空き店舗を活用した創業者向けの創業チャレンジ支援事業を実施します。また，コミュニティ活動を通じ，地域資源を生かしながら地域課題の解決を目指す，コミュニティビジネスを関係機関との連携により育成・支援を行います。

まちづくり指標

まちづくり指標	現行計画策定時	基準値	目標値 (2022(平成34)年度)
産業労働支援センターでの創業等相談件数	583件 (2013(平成25)年度)	488件 (2017(平成29)年度)	

基本計画事業候補

事業名	産業労働支援センターによる新たな創業の支援	担当課	産業振興課
事業の概要	産業労働支援センターにおいて，相談員による創業経営相談や創業に関するセミナー・講演会の開催，スモールオフィスの貸出等，創業に関する支援を行います。		

16-5 特性を生かした地場産業の振興

◆映画・映像関連企業と連携した地域活性化

調布市の特性を生かした産業振興を図るため，「映画のまち調布」の取組を通じて，調布市の大きな特色である映画・映像関連企業をはじめとする市内企業の活性化や，映画・映像関連企業との連携・協力によるまちづくりを推進します。

◆農商連携の取組による産業の振興

地場農産物を活用した新商品・新製品の開発、販路拡大を市内事業所等と連携する、農商連携の取組により、市内産業の活性化につなげます。


◆産学官連携の推進

相互友好協力協定を締結している電気通信大学等と商工会、市内事業所等が連携し、産学官連携の取組により、市内産業の振興に取り組みます。

◆企業誘致による産業の活性化

民間ノウハウの活用や様々な場面での企業間連携などを通し、企業間交流を促進する中で、企業誘致策を検討し、産業の活性化に取り組みます。

まちづくり指標

まちづくり指標	現行計画策定時	基準値	目標値 (2022(平成34)年度)
映画・映像関連企業と連携した取組の件数	14件 (2013(平成25)年度)	35件 (2017(平成29)年度)	

基本計画事業候補

事業名	「映画のまち調布」の推進【再掲】	担当課	産業振興課	重点4
事業の概要	市内映画・映像関連企業との連携を図りながら、フィルムコミッション事業、各種映画関連イベントを実施するとともに、映画関連企業の映画・映像に係る取組の情報発信を行い、「映画のまち調布」のPRに取り組みます。			



参加と協働の視点 ～市民等に期待される役割～

- 市民は、バイ調布運動（市内消費）に協力します。
- 事業者は、魅力ある商店街づくりや快適で安心して買物ができる環境づくりに努めます。

《多様な主体との主な連携事例》

連携事例	連携のパートナー
商店街活性化の推進事業	市内商店会，市内事業者，調布市商工会
地域経済活性化に向けた商業施設等との連携	調布駅前から盛り上げる会
金融機関と連携した中小企業支援事業	多摩信用金庫，三井住友銀行，りそな銀行，みずほ銀行及びみずほ信託銀行，西武信用金庫
産学官連携による産業振興	電気通信大学，市内事業者，調布市商工会

施策17 魅力ある観光の振興

目的	対象	市民, 来訪者
	意図	市民がまちに愛着と誇りを持つ 多くの来訪者が市内を回遊する

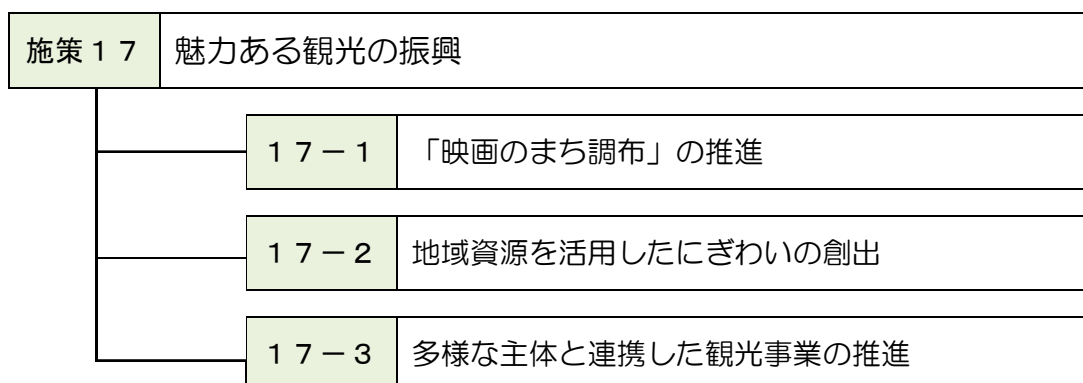
施策の方向

地域資源の魅力の向上と積極的な活用により、市民がまちに愛着と誇りを持ち、多くの来訪者からも訪れたいと思われる、にぎわいのあるまちづくりを進めます。

後期基本計画における施策のポイント

- 「映画のまち調布」や「深大寺」、「水木マンガ」など地域資源を活用した取組の推進
- ロケツーリズムによる地域活性化の推進
- ラグビーワールドカップ2019™日本大会や、東京2020大会を契機としたにぎわいの創出、インバウンド対策を含めた観光振興
- シェアサイクル導入などによる市民と来訪者の市内回遊性の向上促進
- 多様な主体と連携した観光事業や特色あるまちの魅力発信の取組の推進

基本的取組の体系



現状と課題

- 調布市では、1933（昭和8）年に多摩川撮影所（現：角川大映スタジオ）が設立されて以来、映画・映像関連事業所の集積が進み、昭和30年代には「東洋のハリウッド」と称されるほど映画のまちとして発展を遂げました。現在でも多くの映画・映像関連企業が立地しており、映画やテレビドラマ等の撮影や制作が盛んに行われています。
- 「映画のまち調布」の推進に向け、映画・映像関連企業とのより一層の連携を強化するとともに、積極的なロケ支援を行うなど、地域の活性化を図っていく必要があります。
- 市内には、四季折々のイベントを開催している「都立神代植物公園」や、奈良時代に建立された関東屈指の古刹である「深大寺」があり、2017（平成29）年には「銅造釈迦如来倚像」（通称白鳳仏）が国宝に指定され、東日本最古の、寺院伝来の仏像としては都内唯一の国宝仏となりました。また、深大寺周辺には「深大寺そば」の店舗が並び、都内でも代表的な観光スポットとなっています。
- 平成27年に御逝去された調布市名誉市民の水木しげる氏の功績を称え、御命日の11月30日を「ゲゲゲ忌」と命名し、水木しげる氏ゆかりの地を巡るイベントなどを開催しています。
- 調布市観光協会では、ツイッターやフェイスブックに加え、民間事業者が運営するホームページと連携した情報発信を行っています。また、調布駅前広場に設置している調布市観光案内所「ぬくもりステーション」では、観光案内等の拠点として活用することを目的に観光情報の発信や来訪者の案内などを行っています。引き続き、様々な媒体を活用し、まちの魅力を発信していく必要があります。
- 観光振興における自治体間連携として、JR中央線沿線の2市と連携したコミュニティサイクル事業や、京王線沿線5市での合同観光PR等に取り組んだほか、2018（平成30）年度からは、多摩西部地域を含む複数の自治体と連携する地域の魅力向上・発信事業を実施しています。また、ラグビーワールドカップ2019™日本大会及び東京2020大会に向けた連携として、府中市、三鷹市と連携したラグビーフェスティバルの開催など、近隣市と連携した機運醸成に取り組んでいます。そのほか、東京都市長会の附属協議会のオリンピック・パラリンピック連絡協議会等を通じて情報共有を図り、今後の連携方策の検討につなげています。



基本的取組の内容

17-1 「映画のまち調布」の推進

◆映画・映像をつくるまちの推進

市民・事業者等と連携・協力した調布ジュニア映画塾や子どもたちと映画寺子屋、高校生フィルムコンテスト、商店会CMの制作など、映画・映像関連企業が集積する特徴を生かし、映画・映像をつくるまちを推進します。

第3編 分野別計画

◆映画・映像を楽しむまちの推進

市と調布市文化・コミュニティ振興財団が共催する映画のまち調布シネマフェスティバルや調布シネサロンなどを開催するとともに、市民・団体等による映画・映像関連イベントの開催を支援します。

◆映画・映像で学ぶまちの推進

映画・映像関連資料の収集・保存・展示をはじめ、映画をテーマとした講座、講演会や平和をテーマにした映画上映会、子ども映画会など、映画・映像を通して学習する機会を提供するほか、映画・映像づくりやワークショップなど、「映画のまち調布」ならではの取組を進めます。

◆映画・映像関連企業と連携した地域活性化

映画イベントの開催や貴重な映画・映像資料の公開をはじめ、日活映画俳優の手形モニュメントの展示や映画のまち調布を巡るツアーの実施など、映画・映像関連企業と連携した、特色ある地域活性化の取組を推進します。

◆ロケツーリズムの推進

地域資源を活用したロケ支援に取り組むことにより、より効果的な地域の魅力の向上・発信を実現し、地域の活性化、観光客の増加につなげます。

◆「映画のまち調布」の効果的な情報発信

市及び調布市観光協会ホームページ内の「映画のまち調布」コンテンツの充実を図るとともに、映画・映像制作会社向けに、ロケ地を収録した専門誌やウェブサイトへ登録を行うなど、効果的な情報発信を行います。

まちづくり指標

まちづくり指標	現行計画策定時	基準値	目標値 (2022(平成34)年度)
「映画のまち調布（映画・映像を“つくる・楽しむ・学ぶ”まち）」を進める取組に満足している市民の割合	—	64.0% (2017(平成29)年度)	

基本計画事業候補

事業名	「映画のまち調布」の推進	担当課	産業振興課	重点1
事業の概要	市内映画・映像関連企業との連携を図りながら、フィルムコミッション事業、各種映画関連イベントを実施するとともに、映画・映像関連企業の映画・映像に関する取組の情報発信を行い、「映画のまち調布」のPRに取り組みます。			

17-2

地域資源を活用したにぎわいの創出

◆古刹・深大寺を核とする魅力の発信

深大寺だるま市や深大寺そばまつり・深大寺夕涼みの会など、古刹・深大寺を核とするイベントや、バラフェスタなど神代植物公園主催の各種イベントの開催を支援するとともに、調布市観光ボランティアガイドを支援し、深大寺地域の魅力を発信します。また、景観に配慮した観光地にふさわしい街なみの形成や深大寺周辺の環境の整備を推進します。

◆芸術・文化等を通じた魅力の発信

グリーンホールや文化会館たづくり、せんがわ劇場で展開している文化・芸術事業のほか、武者小路実篤記念館・実篤公園、郷土博物館などの地域資源を活用し、調布の魅力を発信します。

◆特色ある観光事業の推進

調布市観光協会と連携し、地域資源を活用した観光事業を実施するほか、姉妹都市・木島平村との交流事業など、特色ある観光事業を推進します。また、東日本大震災に伴う被災地支援を通じた物販イベント等の交流事業を実施します。


◆「水木マンガの生まれた街 調布」の推進

調布市名誉市民・水木しげる氏の御功績を称え、御命日である11月30日を中心に実施する「ゲゲゲ忌」をはじめとした「水木マンガの生まれた街 調布」としての事業を推進します。

◆地域資源を活用した効果的な情報発信

市及び調布市観光協会のホームページのほか、市内の様々な地域情報発信ツールを活用した効果的な情報発信を行います。

まちづくり指標

まちづくり指標	現行計画 策定時	基準値	目標値 (2022(平成34)年度)
観光案内所への来所者数	—	81,815人 (2017(平成29)年度)	

基本計画事業候補

事業名	調布市観光協会事業の促進	担当課	産業振興課
事業の概要	市民がまちの魅力に愛着と誇りを持ち、来訪者が回遊し、また訪れたいと思われるような観光振興を目的に、調布市観光協会の活動を支援します。		

17-3 多様な主体と連携した観光事業の推進

◆スポーツイベント等と連携したにぎわいの創出

ラグビーワールドカップ2019™日本大会及び東京2020大会の開催を契機として、スポーツイベント等の開催機会を捉えたにぎわい創出や観光振興に取り組むとともに、観光情報誌の発行等により、調布市の特色あるお土産や特産品など、国内外に調布市の魅力をPRします。また、FC東京をはじめ、調布市にゆかりのあるプロスポーツチーム等と連携した地域活性化事業を展開します。

◆インバウンド対策の推進

ラグビーワールドカップ2019™日本大会及び東京2020大会の開催を契機として、訪日外国人観光客の回遊性・利便性の向上を図るため、多言語による観光案内や情報サイトの充実、SNSを活用した魅力の発信など、様々な企業や調布市観光協会と連携したインバウンド対策に取り組みます。

◆シェアサイクルの促進

市民及び観光客の自転車利用による回遊性・利便性の向上に向け、運営事業者をはじめ、商店会や商工会と連携し、シェアサイクルの導入を促進します。

◆調布市観光協会の運営支援

地域資源を活用した観光事業の実施や観光資源に関する情報発信など、調布市観光協会の運営を支援し、特色ある観光事業を推進します。

◆多様な主体と連携した観光情報の発信

観光案内所の運営支援のほか、調布市観光協会のホームページ、フェイスブック、ツイッター、観光マップ、パンフレットなどにより調布市の特色ある観光情報の発信を行うとともに、アプリを活用した多言語による観光案内サイトの充実を図り、訪日外国人観光客に向けた情報発信に取り組みます。また、近隣市等と連携したまちの魅力発信にも取り組みます。

まちづくり指標

まちづくり指標	現行計画策定時	基準値	目標値 (2022(平成34)年度)
調布市観光協会発信のSNSのフォロワー数	—	5,823人 (2018(平成30)年 11月末現在)	

基本計画事業候補

事業名	調布市観光協会事業の促進【再掲】	担当課	産業振興課
事業の概要	市民がまちの魅力に愛着と誇りを持ち、来訪者が回遊し、また訪れたいと思われるような観光振興を目的に、調布市観光協会の活動を支援します。		



参加と協働の視点 ～市民等に期待される役割～

- 市民は，まちの魅力に愛着と誇りを持てるよう，地域資源を大切にします。
- 事業者は，地域資源を大切にするとともに，来訪者に対しておもてなしの心を持ち，きめ細かなサービスの提供に努めます。

《多様な主体との主な連携事例》

連携事例	連携のパートナー
市内映画・映像関連企業や市民団体と連携した「映画のまち調布」の推進	市内映画・映像関連企業，市民団体，カナダ・ケベック州政府在日事務所など
多様な主体と連携した観光事業の推進	調布市観光協会

施策18 都市農業の推進

目的	対象	農業者，農地，市民
	意図	安全でおいしい農産物を生産し，市民がそれを消費することができる 農地を保全する 市民が農業とふれあい，都市農業への理解を深めることができる

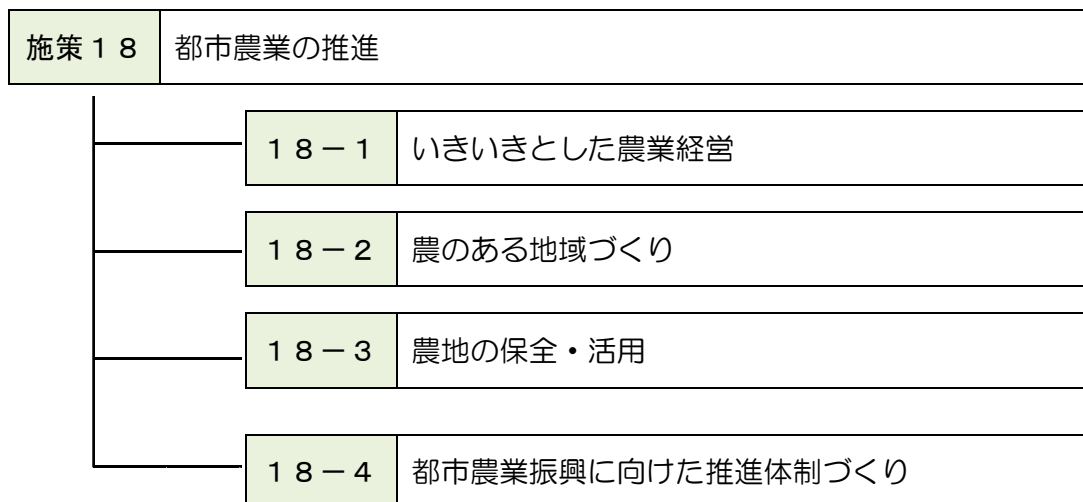
✚ 施策の方向

農業経営の安定化や後継者の育成を支援し，新鮮な農産物の供給や農地の保全・活用を図るとともに，地産地消や農業体験など，多様な役割を有する都市農業を推進します。

✚ 後期基本計画における施策のポイント

- 都市農業の振興と都市農地の活用・保全の推進
- 後継者対策を含めた農業経営支援の推進
- 多様な主体と連携した農のある地域づくりの推進（農業体験ファームや市民農園による農地活用，地産地消，食育への理解促進）
- 生産緑地から特定生産緑地への円滑な移行

✚ 基本的取組の体系



✚ 現状と課題

- 2015（平成27）年4月に都市農業振興基本法が制定され、都市農業の振興に対する基本理念が定められました。また、都市農業の振興と農地保全に関する国の基本的な考え方を示した「都市農業振興基本計画」が2016（平成28）年5月に策定され、都市農業が安定的に継続できる環境が整いつつあり、都市農業は大きな転機を迎えています。
- 都市緑地法等の一部改正（2017（平成29）年6月）により、農地が緑として位置付けられたことも踏まえ、農地の保全・活用に向けた取組を検討する必要があります。
- 都市農地の有効な活用を図り、都市農業の有する機能の発揮を通じて住民生活の向上を目的とした「都市農地の貸借の円滑化に関する法律」が2018（平成30）年9月に施行となり、都市農地については、都市農地の所有者のみならず、都市農地を借り受けた意欲ある都市農業者等により、有効に活用されることが可能となりました。
- 東京都では、国の状況変化を踏まえ、都が目指す農業振興の方向と今後の施策展開を示した「東京農業振興プラン」を2017（平成29）年5月に策定しました。
- 調布市では、都市農業振興基本法を踏まえ、関係機関や団体と連携しながら、農業振興に関する基本的な方向について検討していく必要があります。
- 農業者の減少や高齢化など、農業を取り巻く環境は年々厳しさを増しており、意欲ある農業者が農業を継続できるよう、引き続き、農業施設整備等を通じて農業経営を支援していく必要があります。
- 農業の大切さを体感してもらう学童農園、ふれあい体験農園を通じた都市農業理解の促進、調布産農産物を学校給食に取り入れるなど、引き続き農のある地域づくりを進めていく必要があります。
- 調布市内の農地の8割以上が生産緑地地区に指定されていますが、相続の発生などによりその面積は年々減少し、住宅へと転用されています。都市農地を保全・活用していくため、2018（平成30）年度から生産緑地地区に定めることができる区域の面積要件を500㎡から300㎡に緩和する条例を施行し、生産緑地地区の追加指定を行うとともに、特定生産緑地の指定に向けた取組を進め、引き続き都市農地の保全・活用を図る必要があります。

✚ 基本的取組の内容

18-1 いきいきとした農業経営


◆農業経営の支援

認定農業者などの農業経営に意欲ある農業者が農業を継続できるよう、引き続き「都市農業育成対策事業」や「都市農業活性化支援事業」による支援に加え、都市農地保全支援プロジェクト等農地の保全・活用の取組を通して農業経営を支援します。

◆有機栽培の推進

市民ニーズの高い安全・安心な農産物の品質向上と供給を図るため、有機質肥料の支給による有機栽培の促進など、農業者の取組を支援します。

まちづくり指標

まちづくり指標	現行計画策定時	基準値	目標値 (2022(平成34)年度)
認定農業者の人数	27人 (2013(平成25)年度)	51人 (2017(平成29)年度)	

基本計画事業候補

事業名	農業経営の支援	担当課	農政課
事業の概要	認定農業者などの高い経営意欲を持った農業者に対し、農業施設整備への支援を実施し、都市農業の経営力を強化します。		

18-2 農のある地域づくり

◆市内農産物の直売の促進

より多くの市民が市内で生産された安全・安心で新鮮な農産物を手に入りやすくするとともに、市内における消費の拡大を図るため、JAや地元商店街をはじめとする関係機関と連携し市内農産物の直売をより促進します。

◆多様な農業体験の場づくり

市民が農家の指導を受けながら農作業を楽しむことができる体験ファームの拡充や、農作業を通じて自然に親しみながら生産の喜びを味わうことができる市民農園の確保など、市民が農業とふれあえる機会づくりを推進します。

◆都市農業を生かした食育の推進

農作物の収穫までの過程を知ってもらい、農業の大切さを体感してもらう学童農園やふれあい体験農園の実施、調布産農産物を取り入れた学校給食の実施や消費者と生産者の交流を通じた食育の推進など、都市農業を生かした食育を推進します。

まちづくり指標

まちづくり指標	現行計画策定時	基準値	目標値 (2022(平成34)年度)
多様な農業体験の場 (※)の新規開設数	1園 (2013(平成25)年度)	0園 (2017(平成29)年度)	

※多様な農業体験の場

農業体験ファーム、市民農園、ふれあい体験農園、学童農園

基本計画事業候補

事業名	農業体験ファームの充実	担当課	農政課
事業の概要	市民に対する農業体験の場を確保するとともに、農業に対する理解を深め、良好な農地の保全を図ることを目的として設置する農業体験ファームの拡充を図ります。		

18-3 農地の保全・活用

◆都市農地保全支援プロジェクトの推進

都市農地保全を推進するため、防災や環境保全など農地の多面的機能を一層発揮させるための施設整備など、農地保全に意欲的に取り組む農業者及び農業団体が行う農地保全の取組に対して、ソフト・ハード両面から支援します。

◆都市農地の保全と多面的活用

都市農地を保全していくため生産緑地地区^{※1}の追加指定を行うとともに、特定生産緑地^{※2}の指定に向けた取組を進めるとともに、農業経営の支援や市民農園・農業体験ファーム等に取り組むことにより、都市農地の保全・活用に努めます。

※1 生産緑地地区

市街化区域内にある農地などが有する緑地機能に着目し、公害又は災害の防止、農業と調和した環境づくりに役立つ農地を保全することで、良好な都市環境を形成するための都市計画の制度

※2 特定生産緑地地区

指定から30年が経過しようとしている生産緑地について、10年間の延長ができる制度。10年経過後も繰り返し10年間の延長が可能。特定生産緑地の指定を受けることにより、相続税や固定資産税等の税制特例措置が継続される。


◆里山の保全と活用

農地保全だけでなく、市内でも唯一里山として残されている地域について、自然環境の保全など総合的な観点から、市民との協働による保全・活用を図ります。

◆営農環境の向上と農業公園の創出促進

都市農地の継承を図るため、土地区画整理事業による営農環境の向上と農業公園の創出に取り組めます。

まちづくり指標

まちづくり指標	現行計画策定時	基準値	目標値 (2022(平成34)年度)
生産緑地地区の年間追加 指定件数	6件 (2013(平成25)年度)	3件 (2017(平成29)年度)	

基本計画事業候補

事業名	都市農地保全支援プロジェクト《新規》	担当課	農政課	重点5
事業の概要	農地が持つ防災や環境保全などの多面的機能をより一層発揮させるとともに、地域住民に配慮した基盤整備により、貴重な都市農地の保全を図ります。			

18-4 都市農業振興に向けた推進体制づくり


◆農業振興計画の策定と円滑な推進

都市農業振興基本法を踏まえ、計画的な都市農業の振興を円滑に推進するため農業振興計画を策定します。

◆推進体制づくり

都市農業の振興を推進するため、農業者、JAや地元商店街をはじめとする農業関係機関・団体、農業委員会、市立小学校など、多様な主体と連携した推進体制づくりを進めます。

まちづくり指標

まちづくり指標	現行計画策定時	基準値	目標値 (2022(平成34)年度)
市内農家の農産物直売所を利用している市民の割合	61.1% (2013(平成25)年度)	58.6% (2017(平成29)年度)	



参加と協働の視点 ～市民等に期待される役割～

- 市民は、農業体験などを通じて都市農業に対する重要性への理解を深めます。
- 事業者は、農地の適切な維持・管理に努めるとともに、市民と農業がふれあえる場づくりに努めます。

《多様な主体との主な連携事例》

連携事例	連携のパートナー
調布市農業まつり	調布市農業まつり実行委員会

第3編 分野別計画

6-2 調布らしい芸術・歴史文化が身近に感じられ、新たな世代に受け継がれていくまち

施策19 芸術・文化の振興

目的	対象	市民
	意図	芸術・文化にふれる機会が提供され、芸術・文化活動が活発になる

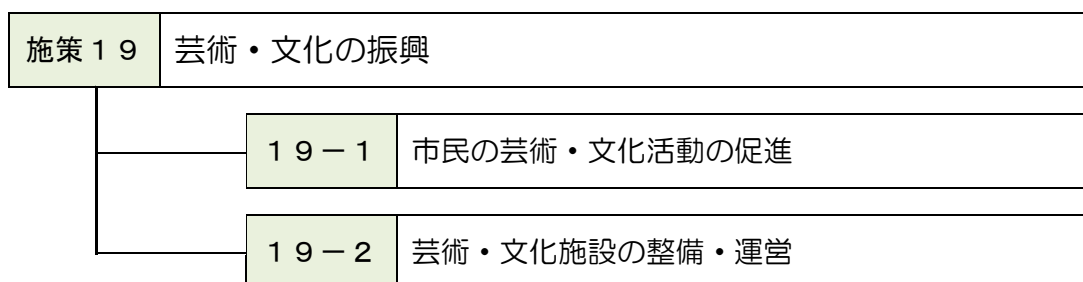
✚ 施策の方向

市民が芸術・文化を日常的に身近なものとして楽しみ、また、自らいきいきと芸術・文化活動を行えるような環境を整備することにより、文化の香り高い、市民文化をはぐくむまちづくりを進めます。

✚ 後期基本計画における施策のポイント

- 「豊かな芸術文化・スポーツ活動を育むまちづくり宣言」に基づく、多様な主体と連携した市民の芸術・文化活動の支援
- 文化芸術基本法に基づく、産業・スポーツ・国際交流・教育・福祉など幅広い分野との連携による地域固有の文化資源の活用
- ラグビーワールドカップ2019™日本大会・東京2020大会を契機とした、様々な文化プログラムの実施などによる、だれもが芸術・文化を身近に感じられるまちづくりの推進
- 文化会館たづくり、グリーンホール、せんがわ劇場、郷土博物館、武者小路実篤記念館など市内の各施設等の分野を越えた連携の検討

✚ 基本的取組の体系



✚ 現状と課題

- 調布市では、文化会館たづくりやグリーンホール、せんがわ劇場をはじめ、市内各地域で映画、演劇、音楽など多彩な芸術・文化事業を実施しています。映画・映像の分野では、「映画のまち調布シネマフェスティバル」をはじめ、映画・映像に関する様々な催しを開催するなど、「映画のまち調布」の推進に取り組んでいます。また、音楽・演劇の分野では、世界的に活躍する著名なアーティストを多数輩出している桐朋学園や市内在住の著名な音楽家が率いる演奏団体と連携した取組など、市民が芸術・文化にふれる機会の確保に努めています。
- 2018（平成30）年6月、「障害者による文化芸術活動の推進に関する法律」が施行され、文化芸術活動を通じた障害者の個性と能力の発揮及び社会参加の促進を図ることが示されました。
- 調布市では、東京2020大会に向けて、日本の文化の継承や、市内で開催される競技等を文化施設の壁面にアートとして展示するなど、文化の発信と大会に向けた機運醸成を図る多彩な取組を展開してきました。更に、市内の事業所等から出た端材・廃材を活用し、市内の学校や幼稚園、福祉作業所等に協力いただきアート作品を作るワークショップや、市内の福祉作業所等で活動されている方の作品を展示する「パラアート展」を継続的に実施するなど、だれもが参加できる企画や障害者理解の促進につながる企画を通じて、芸術・文化における共生社会の実現に向けて取り組んでいます。
- より多くの市民が優れた芸術・文化に触れ、気軽に芸術・文化活動に取り組むことができるよう、引き続き、文化施設以外の公共的な空間や民間施設の活用も含め、活動の場や発表の機会を適切に確保するとともに、芸術・文化を通じた市民や団体の交流を促進していく必要があります。
- 調布市では、文化会館たづくりの設置に合わせ、調布市文化・コミュニティ振興財団が設立され、グリーンホールと文化会館たづくりの施設管理及び事業運営を行い、調布市とともに芸術文化の振興に取り組んできました。また、2006（平成18）年度からは、財団が両施設の指定管理者として管理運営を担い、安心・安全で快適な施設利用サービスと市民ニーズに応じた事業を行っており、2019（平成31）年度からは、せんがわ劇場についても指定管理者として選定され、3つの文化施設の更なる連携と財団のノウハウを生かした効果的・効率的な事業展開を図ります。
- 市民の自主的な芸術・文化活動の拠点となる文化会館たづくりとグリーンホールは、施設の竣工から一定の年数が経過しており、多くの市民が安全で快適に利用できるよう、適切な維持補修を行う必要があります。また、グリーンホールについては、調布市公共施設等総合管理計画における基本方針に基づき、都市基盤整備の進捗や公共施設の在り方検討を踏まえ、民間活力の活用を視野に多角的な検討に取り組み、今後の方向性や施設整備に関する考え方を整理する必要があります。

✚ 基本的取組の内容

19-1 市民の芸術・文化活動の促進

◆芸術・文化にふれる機会の確保

公益財団法人調布市文化・コミュニティ振興財団や関係機関との連携の下、市内の芸術・文化資源や人材を活用するなど、市民ニーズに合わせた多種多様な芸術・文化事業を実施し、市

第3編 分野別計画

民が身近に芸術・文化にふれることができる機会の確保に努めます。

◆芸術・文化活動の場の確保

市民の自主的な芸術・文化活動の活性化にもつながるよう、文化会館たづくりやグリーンホール、せんがわ劇場、公民館、コミュニティ施設などの活用により、活動の場の確保や市民団体の活動を支援します。

◆芸術・文化を通じた市民交流の促進

調布市文化協会を中心に実施する市民文化祭をはじめ、市民講師による文化実技講座など、市民文化の向上を図る事業を展開する中で、芸術・文化を通じた市民や団体の交流を促進します。

◆芸術・文化活動に関する情報の提供

芸術・文化活動について多くの方に関心を持っていただけるよう、公益財団法人調布市文化・コミュニティ振興財団が発行する広報紙のほか、サークルガイドブックやちょうふ地域コミュニティサイト「ちょみっと」、各種SNSなど、市の様々な情報媒体を活用したきめ細かな情報提供に努めます。


◆芸術家・文化人や地域資源との連携によるまちの魅力づくり

音楽、演劇、映画などの調布にゆかりのある芸術家や文化人、桐朋学園、映画映像関連企業、また、市民ボランティアなど、地域資源である人材や団体との連携協力した取組の推進により、地域の魅力を高めるとともに、新たな芸術家・文化人の支援に取り組みます。

◆多様な分野との連携と地域固有の文化資源の活用

市内の様々な有形・無形の文化財など、地域固有の文化資源を活用し、産業・スポーツ・国際交流・教育・福祉など多様な分野と連携した事業に取り組みます。

まちづくり指標

まちづくり指標	現行計画策定時	基準値	目標値 (2022(平成34)年度)
1年間で芸術文化を鑑賞、または自ら芸術文化活動を行った市民のうち、市内公共施設を利用した市民の割合	52.3% (2014(平成26)年度)	49.9% (2017(平成29)年度)	

基本計画事業候補

事業名	芸術・文化事業の実施（文化会館たづくり・グリーンホール・せんがわ劇場の指定管理事業及び補助事業）	担当課	文化生涯学習課
事業の概要	文化会館たづくり、グリーンホール及びせんがわ劇場での音楽、演劇、映画などの鑑賞及び参加型の事業を実施します。 ※ 事業費については、文化会館たづくり、グリーンホール及びせんがわ劇場の施設管理を含む指定管理料と財団の自主事業に対する補助金を計上しています。		

事業名	せんがわ劇場のあるまちづくりの推進	担当課	文化生涯学習課
事業の概要	せんがわ劇場の開館以来培ってきた地域団体や大学等との連携，及び市民ボランティアとの協働を進め，地域の魅力を高め，地域住民のみならず広く市民とともにまちづくりを推進します。		

19-2 芸術・文化施設の整備・運営

◆活動拠点となる施設の適切な維持管理・運営

市民の自主的な芸術・文化活動の場となる文化会館たづくりやグリーンホール，せんがわ劇場などの施設の適切な維持管理と，様々な分野と連携した効率的な運営を推進します。

まちづくり指標

まちづくり指標	現行計画策定時	基準値	目標値 (2022(平成34)年度)
文化会館たづくり・グリーンホール・せんがわ劇場事業の施設利用率(ホール系・会議室系)	ホール系 81.0% 会議室系 69.6% (2013(平成25)年度)	ホール系 84.9% 会議室系 78.1% (2017(平成29)年度)	➔

基本計画事業候補

事業名	文化会館たづくり，グリーンホール，せんがわ劇場の維持・補修	担当課	文化生涯学習課
事業の概要	文化会館たづくり，グリーンホール及びせんがわ劇場について，計画的に改修を行います。		



参加と協働の視点 ～多様な主体との連携事例～

- 市民は，自らの関心や生活スタイルに合わせ，芸術・文化の鑑賞や芸術・文化活動に参加します。
- 事業者は，地域特性に合わせて，市民が芸術・文化にふれる機会や場の提供に協力します。

《多様な主体との主な連携事例》

連携事例	連携のパートナー
地域連携事業の実施（舞台芸術に親しむ場の提供）	桐朋学園芸術短期大学，白百合女子大学，市民ボランティア

施策20 地域ゆかりの文化の保存と継承

目的	対象	市民, 文化遺産
	意図	文化遺産や伝統を次世代に伝え, 郷土への愛着をはぐくむ 文化遺産を保存し, 学習素材やまちづくりに活用する

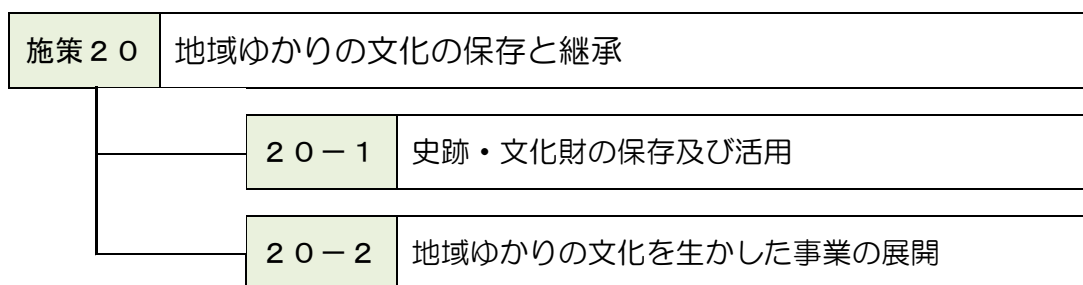
施策の方向

地域ゆかりの文化資源や歴史・文化遺産を保存・活用することにより, 次の世代に継承し, ふるさと調布に対する愛着を育みます。

後期基本計画における施策のポイント

- 幅広い世代が歴史や地域ゆかりの文化にふれられる環境の整備
- 歴史・文化遺産の利活用の検討（国史跡下布田遺跡, 国史跡深大寺城跡, 国登録有形文化財真木家住宅, 国登録有形文化財旧武者小路実篤邸など）
- 深大寺白鳳仏等の文化遺産を活用した調布の魅力を高める取組の推進
- 武者小路実篤記念館を核とした特色ある事業の展開

基本的取組の体系



現状と課題

○市内には、郷土の歴史や文化・自然に関する様々な資料を展示している郷土博物館や、明治から昭和にかけ文学や美術をはじめ幅広い分野で活躍した武者小路実篤の生涯と業績を紹介する武者小路実篤記念館、実篤公園などの施設があります。



武者小路実篤記念館

- 過疎化、少子高齢化などを背景に、文化財の滅失や散逸等の防止が喫緊の課題であることから、2019（平成31）年の文化財保護法の改正により、国は、地域における文化財の計画的な保存・活用の促進や、地方文化財保護行政の推進力の強化を図ることとしています。引き続き、次の世代に着実に継承すべき貴重な財産である文化財の所有者や関係する団体などと協働し、これらの歴史・文化遺産の適切な保護と活用に努める必要があります。
- 調布市には、縄文時代晩期の祭祀や墓にかかわる国史跡の下布田遺跡や、戦国時代前期の扇谷上杉氏の支城である国史跡の深大寺城跡、国登録有形文化財（建造物）である真木家住宅等の歴史・文化遺産があり、それぞれ保存や整備、活用に向けて取り組んでいます。
- 国史跡下布田遺跡については、（仮称）史跡下布田遺跡保存活用計画（2018（平成30）年度末策定予定）に基づき、史跡の保存と活用に向けた取組を進めています。国登録有形文化財真木家住宅については、隣接する公園と一体的な有効活用について引き続き検討をしていく必要があります。国史跡深大寺城跡については、引き続き、国及び東京都と調整を図りながら第3郭を含めた整備と活用を検討していく必要があります。
- 2017（平成29）年9月、深大寺の「銅造釈迦如来倚像（通称白鳳仏）」が国宝に指定されたことを契機に、深大寺と連携した事業を展開してきました。ラグビーワールドカップ2019及び東京2020大会開催に伴い増加が予測される来訪者を見据え、引き続き、市内文化財の活用を図りながら、調布の魅力を高める取組を推進するとともにその魅力を市内外に発信していく必要があります。
- 郷土博物館では、郷土の歴史や文化・自然に関する様々な資料の展示や講座・講演会等の事業実施により、市民に地域ゆかりの歴史や文化遺産に触れる機会を提供しています。また、祭ばやし保存大会を開催し、地域の伝統芸能に触れる機会を提供しています。
- 武者小路実篤記念館では、明治から昭和にかけ文学や美術をはじめ幅広い分野で活躍した武者小路実篤の生涯と業績を紹介しており、「実篤・白樺派・新しき村」に関する情報収集発信基地として資料収集、収蔵品の展示、多様な普及事業、データベースやホームページによる情報提供、調査研究、レファレンス（資料相談、資料参照等）を行っています。今後も引き続き、指定管理者制度を活用した魅力的な事業展開や効果・効率的な施設の維持・管理を行う必要があります。
- 図書館の地域資料や映画資料及び郷土博物館の考古資料や民俗資料等、貴重な資料を次世代に継承するため、適切な保管を図っていく必要があります。

基本的取組の内容

20-1 史跡・文化財の保存及び活用

◆文化財等の保存と活用

国史跡である下布田遺跡の保存・活用に向けた取組や、深大寺城跡の整備・活用の検討に引き続き取り組みます。国登録有形文化財（建造物）である真木家住宅につきましては、隣接する公園等との一体的な活用に向けて引き続き検討していきます。また、祭ばやし保存大会を開催し、郷土芸能の保存や後継者の育成を支援します。

◆地域ゆかりの歴史・文化遺産等の活用と継承

郷土の歴史・文化遺産や地域ゆかりの著名人の文化・芸術活動等について、展示・普及事業を推進します。また、郷土の歴史・文化遺産に関する資料を調査・研究・収集・保存し、次世代に継承していきます。

◆国宝深大寺白鳳仏等の文化財を活用した調布の魅力発信

ラグビーワールドカップ2019や東京2020大会を契機とした来訪者の増加を見据え、国宝指定された深大寺銅造釈迦如来倚像（通称：白鳳仏）をはじめとした、市内文化財の活用を図りながら、調布の魅力を高める取組を推進するとともにその魅力を市内外に発信します。

まちづくり指標

まちづくり指標	現行計画策定時	基準値	目標値 (2022(平成34)年度)
文化遺産の数 (国・都・市指定等文化財)	67件 (2014(平成26)年度)	74件 (2017(平成29)年度)	

基本計画事業候補

事業名	国史跡下布田遺跡の整備・活用	担当課	郷土博物館
事業の概要	縄文時代晩期の下布田遺跡を有効活用するため、史跡下布田遺跡保存活用計画に基づき、史跡公園開園に向けた取組を進めます。		

事業名	郷土の歴史・文化を核とした展示・普及事業の推進	担当課	郷土博物館
事業の概要	郷土の歴史と伝統文化に関する調査・研究や資料の保存を行うとともに、身近な地域の歴史について学ぶことができる展示・普及事業を推進します。		

20-2 地域ゆかりの文化を生かした事業の展開

◆地域ゆかりの著名人の文化・芸術活動等の展示紹介・普及事業の推進

郷土の歴史・文化遺産と武者小路実篤の文学・芸術活動等について、資料の調査・研究・収集・保存を進めるとともに、展示や講座・講演会を開催して普及・啓発に努めます。

図書館では、調布市名誉市民水木しげる氏の作品や、市内の映画・映像関連企業と連携・協働するなど「映画のまち調布」の特色を生かした事業展開にも取り組んでいきます。

◆武者小路実篤記念館を中心とした事業の推進

武者小路実篤記念館においては、実篤研究の情報収集発信基地としての機能を充実させるとともに、次代を担う子どもたちに積極的な働きかけを行うことによって、良質な文化に触れ、豊かな心を育み、郷土に愛着と誇りを感じることができるよう努めます。

まちづくり指標

まちづくり指標	現行計画 策定時	基準値	目標値 (2022(平成34)年度)
郷土博物館・実篤記念館 の入館者数 (実篤公園利用者を含む)	—	5万1,292人 (2013(平成25)年度 ～2017(平成29)年度 平均)	

基本計画事業候補

事業名	武者小路実篤を核とした特色ある事業の展開	担当課	郷土博物館
事業の概要	武者小路実篤を核とした特色ある事業を充実させ、地域教育・文化の向上へ貢献し、全国へ特色ある事業の魅力を発信します。		



参加と協働の視点 ～市民等に期待される役割～

- 市民は、地域にゆかりのある歴史・文化について理解を深め、次世代への継承に努めます。
- 事業者は、文化遺産の保存や調査について協力します。

《多様な主体との主な連携事例》

連携事例	連携のパートナー
調布市郷土芸能祭ばやし保存大会	調布市郷土芸能祭ばやし保存会

